

*** 日本プレイセラピー協会主催 ***

プレイセラピー入門講座

～ 0 - 5 歳の子どもの発達と
親へのかかわり入門～

日本プレイセラピー協会は、これまで、プレイセラピー、子育てに関心があるプレイセラピストをはじめとした多くの方々への講演・ワークショップ活動などを行ってまいりました。

今回の入門講座は、2009年夏に行われる予定の、海外講師招聘プログラム、「子どもの発達とプレイセラピー」をさらに意義あるものとするための、基本的な知識を学べる機会として企画いたしました。内容は、0歳から5歳の幼い子どもの発達の流れや特徴、それぞれの年齢に応じた親の悩みの特徴や、そのニーズにどのようにプレイセラピストたちは応えることができるのか、というかかわりの入門的な知識を、講義や演習を通して体験的に学ぶものです。

講師は、幼い子どもと親の臨床を積極的に行い、そのテーマに関する専門著書を出版されたばかりの**大野木嗣子先生**、幼い子どもの親へのフィリアルセラピーを中心としたかかわりに力を入れ、東京都離島での未就学児の子育て支援活動にも積極的に貢献されている**湯野貴子先生**です。

2009年夏のプログラムに参加を予定されている方のご参加を推奨いたします。

本講座では、このような疑問にお答えします。

0歳から5歳の発達を理解する理論を学びたい。

小さな子どもとその親に対して、どのような心理的な援助の方法があるのだろうか？

幼い子どものプレイセラピーは、5歳以上の子どものプレイセラピーとどう違うのだろうか？

近年、日本においても、子どもと家庭を取り巻く環境は、社会全体の不安定さとも重なり、危機にさらされています。また、子どもの発達は、最初の環境ともいえる親子の愛着関係が重要な基盤となって促進されることが、脳科学研究や乳幼児研究、発達や教育などのさまざまな領域で発見されてきており、不安定な環境がもたらす子どもへの影響は深刻です。子ども・親子を取り巻く家庭や社会の多様な変化を見据えて、さまざまな視点を柔軟に治療に取り入れつつ、親子の関係形成に重点を置いた発達早期の介入が、これからはますます必要となってくると考えられます。子どもとの1対1の関係を重視するプレイセラピーを主に学ぶことの多い我々ですが、実際には、親や家庭を視野に入れたかかわりが必要だと感じていることが多いと思います。でも、親子へのかかわりに関して、具体的にどのような方法があるのかについて学んだことがなかったり、幼い子どもの発達に応じて介入を組み立てるためのしっかりとした発達理解に自信がなかったり、など、幼い子どもへの心理的関わりは重要であると思えば思うほど、迷いも多くあると思います。

今回のプログラムは、入門的な位置づけなので、これからプレイセラピーを学びたいと考えている学生の方々、臨床実践を始めたばかりの初心の方、初心でなくとも、実践をされている中で基礎をおさらいしたくなった臨床家の方々に適しているものです。

日程 2009年5月23日(土曜日)10時から5時 (計6時間:途中1時間お昼休憩)

0歳から5歳の子どもの発達

0歳から5歳の子どもの親が感じる困難さ

親に対するかかわり方の様々な理論と技法

会場 東京都内会場(表参道近辺の会場です。お申込の方に、追って詳細をお知らせします)

参加費 10,000円 **定員** 30名

対象 心理・教育・保育・医療・看護・福祉の大学院生、専門家で、プレイセラピーや子どもの治療に関心のある方

*この講座は、プレイセラピーに知識のない方も参加できますが、ご参加の皆さんの経験や知識にばらつきがあることを少しでも解消し、皆さんの学びがより深まるために、次の本を、プログラム当日までにお読みいただくことを課題とさせていただきます。日本語訳も出版されていますし、とてもよい内容の役に立つ本です。

課題図書 :Garry L. Landreth 著「Play therapy : the art of the relationship」Brunner-Routledge
(日本語訳 グリー L. ランドレス著「プレイセラピー:関係性の営み」日本評論社)

課題図書 :Rise Van-Fleet 著「Filia! Therapy: Strengthen Parent-Child Relationship Through Play」
Professional Resource Exchange
(日本語訳 リセ ヴァンフリート著「絆を深める親子遊び - 子育て支援のための新しいプログラム」
風間書房)

【お申し込み・お問い合わせ】

*日本プレイセラピー協会ホームページからのお申し込み、お問い合わせとなります。

協会ホームページ:<http://www.ja4pt.org/>

メール(play_therapy@nifty.com)、または、メールをお持ちでない方は、FAX042-759-6199(青山学院大学学生相談センター内日本プレイセラピー協会事務局)でも、以下の項目をご記入いただけましたら、お申込みをお受けできます。(必要記入事項:お名前、ふりがな、性別、連絡先住所、電話、FAX、メールアドレス、所属、職種、心理臨床経験年数、プレイセラピー臨床経験年数、卒業(所属)大学や大学院名と専攻、お申し込みプログラム名、研修証明書発行の希望の旨、臨床心理士の方は臨床心理士番号、当研修会をお知りになったきっかけについて)

*お申し込み内容を受理いたしました後、こちらから参加費振り込み口座をお知らせいたしますので、追ってご入金をお願いいたします。ご入金をもって正式受付となりますので、正式受理書類を郵送とメールにてお送りいたします。

*ご入力のメールアドレスにお間違いがありますと、こちらからのご連絡ができなくなりますので、ご注意ください。

*お申し込み後、事務局より振込口座のお知らせ、入金後の正式受理通知などが、しばらくお待ちいただいても、お手元に届かない場合には、通信障害や郵送事故の可能性がございますので、お手数ですが、事務局までお問い合わせください。よろしくお願いいたします。

*ご入金後のキャンセル、返金はいたしかねます。ご了承ください。

締め切り:2009年4月20日(月) 先着にて受付 (定員になり次第、締切日前でも締め切りとさせていただきますので、

予めご了承ください。定員空き状況はホームページにてご確認いただけます。)

【研修証明書発行】

*本講座は、米国プレイセラピー協会において認定された講師による、認定証明書発行対象のプログラムとなっています。(APT approved provider: 08 - 225)

ご希望の方には、米国プレイセラピー協会の研修証明書を発行することができます。認定プレイセラピストの資格を取得する際に必要研修時間として認められます。発行手数料は 3000 円です。申込時に、要・不要を記入し、要の方はお振込み金額合計に 3000 円をご加算ください。

*臨床心理士ポイント申請予定です。

講師紹介

大野木 嗣子, Psy.D.

カリフォルニア・スクール・オブ・プロフェッショナル・サイコロジー（サンディエゴ）臨床心理学博士号取得。現在東京都港区で開業、国際基督教大学にてプレイセラピーの客員講師。日本プレイセラピー協会共同創設者・理事、International Mental Health Professionals Japan(IMHPJ)理事、Nana's Children Mental Health Foundation 顧問などを務める。

子ども、家族、プレイセラピー、子育て支援や多文化的問題を専門とし、ワークショップやセミナーも多数開催している。平成 16 年のスリランカの津波の災害時に Operation USA と米国プレイセラピー協会の支援の下で直接心理的な援助をおこなう。幼少時期と大人になってからも日本とアメリカ両方で過ごしたため、完全なるバイリンガル、バイカルチュラルでもある。編著などには以下がある。

“International Handbook of Play Therapy” Charles Schaefer, Ph.D., Akiko Ohnogi, Psy.D., and Judy McCormick, M.A., Eds., Rowan&Littlefield, 2005

“Play based psychological interventions with traumatized children: Work with tsunami orphaned Sri Lankan children. International Journal of Counseling and Psychotherapy, Vol 4, 2006

“Play Therapy and Safe Space” International Journal of Counseling and Psychotherapy, vol. 5, 2007

“Play Therapy for the Very Young” Charles Schaefer, Ph.D., Phronsie Kelly-Zion, MA., Judy McCormick, M.A., and Akiko Ohnogi, Psy.D., Eds. Rowan&Littlefield, 2008

湯野 貴子

日本プレイセラピー協会代表。臨床心理士。都内教育相談所勤務を経て、ファミリーメンタルクリニックまつたに・クリニック川畑において、子どものプレイセラピー、保護者に対する子育て相談、親子同席のプレイセラピーなどを行っている。東京都の離島である神津島村、小笠原村の子育て支援事業にも従事。精神分析的心理療法が専門領域でもあり、分析的なケースのアセスメントを基盤とした親子への介入の組み立てを行う。訳書に「ケースの見方・考え方」(ナンシーマックウィリアムズ著、創元社)。

主催：日本プレイセラピー協会 www.ja4pt.org

共催：ドクター大野木サイコセラピー・カウンセリングクリニック